

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2004.12) 5巻1号:78.

【学会の動向】第88次日本法医学会総会記録の印象記

塩野 寛

学界の動向

第88次日本法医学会総会記録の印象記

塩 野 寛*

開催日 : 平成16年(2004年) 6月2日~4日
場 所 : 北海道旭川市 旭川グランドホテル
会 長 : 国立大学法人旭川医科大学
理事・副学長 塩野 寛

参加者 : 621名

発表演題 : 特別講演2題、教育講演5題、シンポジウム2題、学術奨励賞受賞講演2題、ポスターセッション226題

6月3日 開会式が午前9時からメイン会場(旭川グランドホテル景雲の間)で開催され、引き続き総会議事において評議員会報告がなされた。午前9時30分からメイン会場にて、株式会社三菱化学ビーシーエルドーピング検査室長、植木眞琴先生による教育講演(1)「薬毒物分析における標準化と品質保証の海外の動向」、次ぎに東京都神経科学総合研究所臨床神経病理研究部門、小島英明先生による教育講演(2)「突然死に隠された脳の血管病変—脳血管非分岐部動脈瘤を中心に—」、そして、大阪市立大学大学院医学研究科法医学、前田均教授による特別講演(1)「急死の病態生理生化学—エビデンスに基づく客観的な法医病理診断のために—」が行われた、午後1時よりポスター会場1(孔雀の間)、午後2時よりポスター会場2(白鳥の間)において、演題番号奇数のポスターセッションが各座長の司会のもとに行われ、活発な討論が展開された。午後3時10分よりメイン会場にて、北海道大学大学院薬学研究科代謝分析学分野、鐘滝哲也教授による教育講演(3)「チトクロームP450の遺伝的多型と喫煙による発がんリスク」、続いてシンポジウム(1)「法医解剖(司法解剖):その質を向上させるために 1. 肉眼的観察 2. 病理学的観察 3. 中毒学的検査 4. 生化学的検査」が行われた。午前午後共に各

講演は大変に興味深く、会員各位に深い感銘を与えるものであった。午後6時30分より、旭川グランドホテル3階において懇親会が開催され、約400名が懇親を深めた。

6月4日 午前9時から、浜松医科大学法医学、渡部加奈子助教授による学術奨励賞受賞講演「低温オーブントラッピングキャピラリーガスクロマトグラフィ法の中毒学的応用」及び、兵庫医科大学法医学、木下博之助教授による学術奨励賞受賞講演「エタノールとアセトアルデヒドによる神経ペプチド発現への影響」が行われた。続いて、大阪医科大学法医学、鈴木廣一教授による教育講演(4)「血液型遺伝子にみられる多型生成機構」、北里大学医学部法医学、栗原克由教授による教育講演(5)「異状死体の死因究明の現状と将来的展望」そして産業医科大学法医学、田中宣幸教授による特別講演(2)「ショック発生のメカニズム—法医実務への応用を目指して—」が行われた。午後1時10分よりポスター会場1(孔雀の間)、午後2時10分よりポスター会場2(白鳥の間)において、演題番号偶数のポスターセッションが各座長の司会のもとに行われ、真剣な討論が展開された。午後3時20分より、シンポジウム(2)「毒性学における Toxicogenomics の展開 1. Toxicogenomics—環境化学物質の生体影響評価におけるゲノム情報の活用 2. 「前向き」Toxicogenomics 3. 神経変性疾患における Toxicogenomics 追加発言「Forensic Genetics のこれからの方向性」が開催された。午前午後を通して、各講演は大変に興味深く、会員各位に深い感銘を与えるものであった。午後4時50分から閉会式が行われ、香川大学医学部井尻 巖次期会長から第89次総会の案内があり、会員は高松での再会を約束して散会した。

* 国立大学法人旭川医科大学 理事・副学長